

熊本県中学校体育研究会ダンス部会授業研究会 質疑応答

〈公開授業②〉

天草市立有明中学校 2年A組 単元名 ダンス「創作ダンス」

天草市立有明中学校 教諭 金子 大

【授業者自評】 スライドを使用

金子大 教諭

○ダンスを選んだ理由から

自分が余り得意ではない、ダンスの授業のつくり方を学んでみたいと思った。

また、本校の生徒は、人前で話をするなどの表現が苦手な生徒が多く、体育大会のダンス創作の一助となればと思いダンスの単元を選んだ。

○生徒の実態から

ダンス経験者はいない。1年生の時にダンスを実施した。ダンスへの関心を高めるためにリズムダンスを行った。グループで考えさせることやテーマに沿ってイメージを捉えることを意識して行った。運動量が落ちること、個の表現技能が高まりにくいことが課題だと感じた。ダンス授業の生徒のアンケート結果から、研究の視点3「受容感」、視点2「統制感」の数値が高くなった。グループ活動の効果ではないかと考えている。

今回は、昨年学習したステップ等の動きを元に動きを作成した。グループでステップを選び、イメージを見立てながら作っていった。

本時は特に、運動有能感の低い生徒にGTに入ってもらった。

鶴岡 先生（ゲストティーチャー）

生徒は、ダンスを頑張りたいという気持ちはあるが、表現できないのが課題。1～3時間目は「思いつき動くことができない」、「はずかしい」などの気持ちがあった。 考えていることを表現することが難しいので、漠然としたテーマよりも具体的なイメージを持たせた。ステップを覚えるのが大変だが、ベースとしてのステップがないとダンスとまではいかないのでステップは徹底練習が必要と考える。本時はそのステップを使って動きを構成する授業の展開を行うことができた。

☆質疑応答①

Q 先生と生徒のやりとりがうまくできていて人間関係がよくできていることが伝わってきた。天草サブテーマ「学びに向かう力」だが、今日のどの場面で、どのような部分が学びに向かう力を高めるのか。

A 本時は自分たちの考えをどのように表現するかが難しいと感じていた。事前にイメージを考えさせることで動きが豊かになった。もっと右、もっと右と声掛けすることでイメージが広がった。iボードを活用することによって考えを広げた。

A 天草の課題として、子どもたちはまじめで一生懸命だが、体育がきらいという生徒もいる。学校を卒業しても運動に取り組んでいける力が「学びに向かう力」。そのためには、運動に対する意欲を高めることが必要だろう。

☆質疑応答②

- Q GTをお願いするときに時間割などの計画はどのようにしたのか。
- Q サッカーの動きは子どもたちがイメージした動きなのか、先生が考えた動きなのか。
- A GTに関しては、仕事の都合を聞きながらお互いの日程が合う時間で授業を行った。2時間続きで入れたこともあった。
- A 今回の授業ではサッカーの動きをやることを事前に伝えて、帰りの会でイメージを考えさせた。生徒たちの方からボールになるなど教師側が想像している以上の発想があった。

☆質疑応答③

- Q 最初の頃は恥ずかしさがあったということであったが、生徒たちは楽しそうに堂々と表現していた。恥ずかしいと思っていた子にどのようなアプローチをしたのか。また、ダンスが嫌いと言った子（リズムに抵抗感）に対しての手立てをどうしたか。
- A 教師側がノリノリで行くことが大事。声掛けを多くすることを心がけた（テーマに合わせた声掛け）。個別の支援はGTをお願いした。ヘルプカードを用いてGTに関わってもらった。
- A 声掛けと有能感が低い生徒を中心に声掛けを行った。リズム感が苦手な生徒への対策としては、基本のステップを覚えさせてから曲を入れていった。

☆質疑応答④

- Q 深める場面で即興発表会での改善点を伝え合う場面で、映像を見て満足してしまった場面があった。そのときに生徒からどのような発言があったらよかったか。また、その発言が出るための手立ては？
- A 手立てとしては、プロジェクターを使ったり、「〇〇の動きは〇〇を表している」などの指導はしていたが、それを伝え合う方法を徹底できていなかった。
- A 「役になり切る」という言葉が出てくるといいなと思った。前回の授業では、1回だけそういう言葉が出てきた。漫画の映像を見せすぎてしまうことで、全部それを真似してしまうので、その調整が難しい。

☆質疑応答⑤

- Q ダンスは私たちも恥ずかしいという思いもあるが、「これは効果的だった」というものはあるか。
- A 自分たちも恥ずかしさを捨てることが大事。私たちが失敗することで「失敗していいんだ」と思わせることができた。一緒に楽しむことが大事。

熊本県中学校体育研究会ダンス部会授業研究会 指導助言

天草教育事務所 指導主事 宮田知政

教師と子どもたちの関係が出来上がっていることを感じた。学習訓練がしっかりしており、安全面・効率を考えても大切なことと考える。授業において「はい」という返事など改めて大切だと感じた。

ダンスの授業をするに当たって、恥ずかしさはあるが、教師側がいかにスイッチを入れるか（自分をさらけ出して失敗してもいいんだ）重要である。

「学びに向かう力を高める」について。

学習の流れをいかにつかむか、めあて・まとめを生徒と共有することが大事である。本時は、ポイントを明確にするために、「誇張」を（ ）抜きにして意識させていた。学習カード、ICT が活用されていた。ICT の使い方も子どもたちは上手になっている。

「いいね」などほめる言葉が多く出ていた。ただし、「いいね」には教師と子どもたちに認識のズレが生じる。そのズレを修正するために「いいね」だけでなく、なぜ「いいね」と言われたのかその理由を考えていくことが大事。そのためには、めあてがしっかりしている必要がある。

生徒たちはアドバイスを聞いてもう一回動いてみたいと思ったのではないかと。意見交換した後にそういう時間を設定しても面白かった。

運動有能感について。

保健体育に限らず、「分かった」「できた」は大切である。それをこれからどうアプローチしていくか。天草郡市では、できる・のびる・かかわる楽しさの3つの視点からの研究がおこなわれている。天草の子どもたちに寄り添った研究が進められていると感じる。今回の研究の成果と課題をこれからの学習指導に活かしてほしい。

昨年3月新学習指導要領が示されたが、これまでの研究をもとに「学びに向かう力、人間性等」「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究になっていた。

GTを活用するなどのカリキュラムマネジメントについて、見方・考え方をどのように働かせるか、そのために専門家であるGTを効果的に活用していた。

来年度から移行措置は1年生が対象となる。体育理論、保健分野に変更があるため、今年度中に準備をお願いしたい。

1年生の保健分野の時間に変更がある。2・3年生は変更がないので指導内容を整理してほしい。

熊本県中学校体育研究会球技部会 授業研究会 質疑応答

〈公開授業①〉

天草市立稜南中学校 3年2組 単元名 球技「バドミントン」

天草市立稜南中学校 教諭 梅北勇樹

【授業者自評】スライドを使用

梅北勇樹 教諭

3年間を通した取組、技能の変容を見ていこうと思っている。

本校にはバドミントンの専門教諭はいない。また、バドミントン部はなく、生徒は中学校までバドミントンの経験がない。しかし、バドミントン経験者がいないので、同じスタートで取り組めると考えている。

1年時にはラケット操作とフットワークを身につける学習を行った。2年時にはダブルスのゲームの進め方等を理解させてきた。3年になった今回は、学び合い、見方考え方の定着を図っていきたいと思っている。運動有能感アンケートから見えてきた支援が必要と思われる生徒への支援を重視している。本時の授業では生徒間の学び合い、授業中の声かけなどがまだ十分ではなかった。グループでの差も見られた。

受容感が低い生徒へ特に声かけを意識して行うようにした。技能に自信がないので、学び合いにやや消極的なところも見られた。だが本人なりには意欲も向上してきている。ダブルスでのペアの差もあった。

グループは習熟度別に分けた。同じ技能レベルのチームを作った方が学び合いの様子は活発であった。今回はあえて、様々なレベルの生徒を同じチームにして、授業を進めた。

☆質疑応答①

Q ゲストティーチャー（GT）は、本単元にどのくらい活用されたのか。

また、GTとの指導のすみわけや、打合せはどのようにされたか。

A 本単元では、8回のうち6回授業に入っていた。

LINE で連絡し、補助資料を見ていただき、アドバイスをもらった。授業前と授業後に時間割を見ながら次の活動の確認を行った。地域の方は大変協力的である。

☆質疑応答②

Q 苦手な生徒への個別の支援はどうされているか。

A 2～5時間目は技能を中心の授業を行った。5校時の授業の時は、昼休みに補充学習を行うこともあった。6時間目以降も補充学習は継続した。

☆質疑応答③

Q 苦手な3名の評価はどうだったか。

A B評価までは達していなかった。しかし、自分が教えてもらった他の生徒へMVPをあげるなどしていた。班の中で受容感の高まりは見られた。

☆質疑応答④

Q グループ分けの意図を教えてください。

また、これまではどのようなグループ編成をしたか。

A 1～5時間目の授業は生活班をグループとして行ったが、技能の差が出てきたため、補充学習を実施した。6時間目からは、技能だけでなくリーダー性を持った生徒を振り分けたり、受容感の低い3名を振り分けたりした。

☆質疑応答⑤

Q 空いたスペースの攻防についてどのような指導をされたか。

A 今回は、フォーメーションを重視した。4・5時間目の授業（スマッシュの単元、オーバーの打ち分け）の時に空いたスペースを意識した攻防を学習した。

☆質疑応答⑥

Q 良い指導法や事例があれば紹介してほしい。

A ラリー重視の時は、スマッシュを使わないゲームを行うといいのではないかと。

A ICTを活用して、ゴールの姿を見せる。イメージを持たせると良い。

熊本県中学校体育研究会 球技部会授業研究会 指導助言

熊本県教育庁教育指導局体育保健課 指導主事 黒木幸博

言うこと一緒やること一緒ゲーム。みんな正解の時は、楽しくない。学習が簡単過ぎるとやる気が起きないし、飽きてくる。少し難易度が上がると楽しく笑いがおきてくる。

失敗した時に笑顔になるのが大切。失敗した時に笑えない、失敗が許されない状況を作らない。失敗した時に笑う姿があり、それを周りが支え励ます。するともう少しやってみようと思ひ、少しずつ技能も上達していく。

課題別練習→グループ練習どちらも支持的風土作りが大切である。

「同じようなレベルの生徒を集めるとやりやすい」という考えは注意が必要である。大人になって社会に出たとき、差別等につながる危険がある。新学習指導要領では、様々なレベル、性別の人とあえて同じグループにして活動させ、成功体験を積み重ねられるような指導を大切にしてほしい。目の前の授業のやりやすさより、生徒が大人になってからのことを大切に指導してほしい。

運動有能感の研究では、東京学芸大学や大阪体育大学の研究を参考にしてきた所は素晴らしいと思う。

子どもの実態から研究をスタートし、生徒に寄り添った研究という姿勢は素晴らしく、生徒ファーストである。

新学習指導要領を参考に研究がなされている。主体的な学びの指導の工夫はICTを活用してゴールの姿を見せること。イメージを持たせることが大切である。

ゲストティーチャーの活用については、必要な人材が必要な時に、専門家の意見を聞いて、スポーツの特性を生徒に伝える。

評価の3観点は2021年度からスタートする。

来年の新1年生の保健・体育理論は新学習指導要領の内容で指導する。

高校に送るときに高校の体育の授業を楽しめるように、中学校の体育の授業を充実させてほしい。

